

子どもたちへの支援に役立つ情報を伝える

中河内ブロック支援通信

8月1日(火)、八尾支援学校を会場に「事例から学ぶ支援教育」をテーマとして第1回中河内ブロック研修会を行いました。今回の研修では、八尾支援学校、東大阪支援学校、東大阪市、八尾市、柏原市の学校園の先生方など183名の参加があり、日ごろの支援について事例を持ち寄り、意見交流を行いました。

子どもとのかかわり方や保護者支援、学習時間の保障などさまざまな視点で活発な意見交流が行われました。普段はなかなか行えない事例相談を通して、さまざまな指導・支援の方策を共有し、ヒントを得られた方が多かったのではないのでしょうか。来年度も、たくさんの先生方の参加をお待ちしております。

以下に参加された先生方の感想をいくつか紹介します。



■色々な校種の先生たちとお話ができてよかったです。小学校の事例は、なかなか経験したこともなく解決法は分かりませんでしたが、各学校で、やはり困っていることはたくさんあって、共有することで気持ちを新たに子どもたちと関わっていけると思いました。

□他の学校の取り組みを具体的に聞くことができ、すぐに実践に生かせるようなこともたくさん聞けたのでよい機会になりました。

■いろんな先生のお話が聞けて良かったです。事例を多角的に捉えることの大切さを改めて実感しました。

□他の学校の事例も聞くことができ、自校の他の子に置き換えて考えたり、手立てのヒントが見つかって有意義な時間でした。



改めて考えてみませんか？

自立活動

文部科学省から令和4年4月27日付けで通知された「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)」では、改めて自立活動の時間について記載されています。特別支援学校小学部・中学部学習指導要領に示されている自立活動を取り入れていく必要があります。

自立活動は、子どもたちが自分の力を発揮してよりよく生きていけるようになるために、障がいによる日常生活や学習面の困難を改善・克服するための大切な学習活動です。

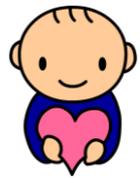
自立活動の目標は、障がいそのものの改善をめざすものではありません。経済的自立のような狭義の自立ではなく、調和的な発達や成長ができるように、子どもの「障がいの状態」の改善を図ろうとするものです。

主体は子ども





すでに各学校でも取り組まれているかと思いますが、ここではもう一度、基本に立ち返ってみましょう。就学前施設等の先生方にも参考にさせていただけたら幸いです。



どの子どもも
自立活動をするの？

自立活動を行う対象は、特別支援学校、特別支援学級に在籍の児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒です。

ただし、通常の学級にも特別な支援を必要としている「困っている子ども」がいます。

従って、自立活動の視点をもって指導にあたるという点は、すべての教職員が意識したいことです。



自立活動の内容には、
何があるの？

自立活動の内容は、6区分 27項目にまとめられています。「健康の保持」「心理的な安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」及び「コミュニケーション」の6つの区分の下に27項目が設けられています。(より詳細な内容については、こちらでは省略します)

自立をめざす主体は一人ひとりの子どもであり、子ども主体の学習です。

各教科の学習が十分にできる状態や環境の基盤を作ること。自立活動は、学習を積み上げていくための発達の土台をしっかりと作るものです。



内容(6区分 27項目)をすべて取り扱うの？

各教科等のように、内容すべてを取り扱うものではありません。個別の指導計画(自立活動)を作成する際、実態に応じて必要な項目を選択します。ただし、選定した項目を単独で扱うのではなく、「必要な項目を相互に関連付ける」ということが自立活動の指導を行ううえで大切なポイントです。

自立活動の取り組みは、「かならず〇〇を行わないと!!」というようなしぼりはありません。

その子どもにとって、「これができたら、これが改善されたら、学習や生活がもっと楽しくなるんだろうな...」のこれを考えること。そして、「どうしたらできるかな?」の視点を持つこと。それが、自立活動の取り組みにつながっていきます。

そのためには、複数の視点で見ていくこと(夏のブロック研修会のように)、小さな気づきを共有することなどが大切ではないかと思えます。

自立活動に関することやその他支援教育に関することなど、お気軽に支援学校にご相談ください。一緒に支援の方策を考えていきましょう。

ぜひご参加
ください!



第2回中河内ブロック研修会(講演会)のお知らせ

日時: 2024年1月5日(金) 14:00~16:30(予定)

会場: 八尾支援学校 ※集合型研修となります

講師: 宮崎 義博先生(作業療法士)

演題: 『「うまくいかない」ことが「うまくいく!」に変わる! 子どもたちがいきいきと輝く「かわり方」と「工夫」』

